

1月9日、中央生涯学習センターで新年賀詞交換会が開催され、271人の市民が牛久市のさらなる飛躍、発展を祈りました。ここでは、主催者代表の根本洋治市長のあいさつ(要旨)を紹介いたします。

明けましておめでとうございます。昨年は平成を締めくくり、新たな「令和」の時代の始まりとなった年であります。

私も市長として2期目の市政のかじ取りを担わせていただくこととなりました。全国的に少子高齢化社会がさらに進展し、将来的な税収の減少に対する懸念や、全国各地で大きな被害をもたらしている台風や地震といった近年の激甚化する自然災害への対応など、さまざまな課題に直面しております。中でも防災力の強化については迅速かつ的確に対応するため、今年の4月から防災に特化した部署を新たに設置する予定です。

武道館の竣工、ひたち野うしく中学校の開校

市長に就任して1期目の4年間で実現した政策の一つとして、昨年3月末に、市民の皆さんからの20年来の要望であった「武道館」が完成しました。昨年牛久市で開催された国体の空手道競技の補完施設として活用され、茨城県が見事男女ともに総合優勝し、開催市の市長として大変喜ばしく思っています。

また、ひたち野うしく中学校がいよいよこの4月に開校します。木造平屋の良いところを最大限に生かした、美しく、機能的で温かみのある校舎は、地域との交流にも配慮した構造です。幼稚園、小学校とも隣接し、交流・連携が図りやすく、教育環境がますます充実します。

エスカード牛久ビルと牛久シャトーの復活

エスカード牛久ビルについては、地下駐車場と1階から3階までの一部の床を市が取得しました。今年のゴールデンウィークを目途に、一部リ

ニューアルオープンを目指し、牛久駅からエスカード牛久ビルに入る2階エントランス部イメージの刷新や、2階・3階の旧イズミヤ店舗部について、天井、床、トイレ等のリニューアル工事を実施します。

またテナント誘致と合わせ、4階フロアを前提に、新たに公共的な活用を構想し、これまで美術館や、図書館、学習室等、さまざまな意見が寄せられるなか、どのような利用がよいのか検討を進めています。駅前に立地している特性を最大限に生かし、「集客力」「多世代交流」「学生」といった要素を念頭に市民の皆さまに愛される施設としてまいります。

牛久シャトーの運営については、存続を第一義に考え、市主導の新会社を設立して経営

的発想と歴史的価値の高揚という二つの側面から経営を任せていくこととし、新法人「牛久シャトー株式会社」の名称で1月6日に法人登記が完了しました。

新会社が直営で行う事業のひとつとして、明治から続くワイン醸造の系譜が途切れないよう早期に再開することを目指しています。牛久シャトーの圃場で収穫したぶどうを使い、シャトー内で醸造した「牛久ワイン」を販売することが使命のひとつであると強く感じており、市と新会社、そして市民の皆さんと三位一体で牛久シャトーを盛り上げ、「復活」を軌道にのせてまいります。

オリンピック聖火リレー

東京オリンピックピック聖火リレーに牛久大仏と牛久シャトーを通るルートが選ばれました。新しいことに挑み続け、そして笑顔あふれるまち牛久の魅力をもっとPRする絶好の機会でもあり、聖火を東京までつなぐため、市民と共に大いに盛り上げたいと思います。

リスクを恐れず挑戦を

日本初の南極観測隊の越冬隊長を務めた西堀栄三郎さんは、著書「石橋を叩けば渡れない」で、何か新しいことをするときの心構えとして、「新しいことにはリスクがつきものであり、どうしてもそれをやることを決心しなければならぬ場合もある」といいます。

「牛久シャトー」「エスカード牛久ビル」についても、リスクはあります。しかし、それを恐れて石橋をたたいているだけでは、永久に橋を渡ることではできません。私ひとりの力では願いは叶いません。職員、そして市民の皆さん、一人ひとりが、「為せば成る」の心構えをもって主体的に行動していくこと、そこからこそ新しい道は切り開かれていくのだと思います。皆さんと共に、「オール牛久」で、一丸となってまちづくりに取り組み、一人ひとりが幸せを実感できる「牛久市」を実現してまいります。

令和2年 新年賀詞 交換会

